

質問票：海外におけるコロナ探知犬の活用状況について

本調査にあたり、(1)MINISTRY OF SOCIAL AFFAIRS AND HEALTH of Finland (フィンランド社会福祉保健省)と(2)Hyvä tohtori Anu Kantele (貴県から送付のあった別紙1のうち No. 43 の論文の著者)に英文の質問票を送付した。回答は以下のとおり。

問1 別紙1のとおり論文を発表した研究者の国々で、新型コロナ等の検査における探知犬の活用の有無(制度化や社会実装が行われているか否か)について。

答1

(1) MINISTRY OF SOCIAL AFFAIRS AND HEALTH of Finland

2020年秋から2021年春までの7ヵ月間、ヘルシンキ・ヴァンター国際空港で、9頭の犬が新型コロナを探知する訓練を受け、そのうちの4頭が実際のスクリーニングに使用された。これらはBMJ Global Healthに掲載された論文(先述したNo.43の論文)で研究された犬たちである。9頭の犬のうち何頭かは、フィンランドの税関で活用するために、主に港で新型コロナが陽性の乗客を探知するために訓練されたが、研究対象には含まれず、実運用もされなかった。

訓練を受けた犬たちは、建設作業員が使用したマスクの新型コロナを探知する実験も行った。犬がマスクを検査して陽性であった場合、作業員たちはどのように行動すべきか異なる指示を与えられた。探知犬は検査室での検査に取って代わるものではなく、主に無症状保菌者の認識を容易にするために利用された。我々の知る限り、コロナ探知犬は2021年以降フィンランドでは利用されていない。

問2 また、実施している場合は、検査の実施及び制度の継続状況について。

- ①新型コロナ等の検査について、国が正式な検査結果として用いられるように制度化し、スクリーニング検査などとして継続して探知犬が活用されているか。
- ②正式な検査結果としては用いられないが、その結果を元にPCR検査などの精密検査を実施するように探知犬が活用されているか。
- ③実証実験として継続して探知犬が用いられているか。

答2

(1) MINISTRY OF SOCIAL AFFAIRS AND HEALTH of Finland

①～③ いずれも活用されていない。

<参考>

(2)Hyvä tohtori Anu Kanteleによれば、新型コロナに関する研究はコロナ症例数が著しく減少したため資金を得られておらず、研究は進んでいないとのこと。また、現在はコロナではなく乳がん探知犬の研究に取り組んでいる。